

先生方のための徹底入試対策講座

第117回 大学入学共通テストは、こうなる！

前は、大学入学共通テストの対策を中心に、どちらかという受験生の目線を意識して、お話ししました。

今回は、入試センターの発表や資料、あちこちから入る情報をもとに、形式面などを取り上げて、生徒諸君にお伝えしたいこととお話します。もちろん、確実な情報に基づきます。

そんなことよく知っているよということも少なくないかと思いますが、念のため一通りまとめておきますね。



1 試行調査より量的に軽減される

入試センターの「大学入学共通テストの導入に向けた試行調査の結果報告」には「全体の分量と試験時間のバランスに課題が残ったものと考えられるため、共通問題において、

数学的な問題発見・解決の過程の全過程を問う問題は、大問もしくは中間1題程度

とし、他の問題は、過程の一部を問うものにする」とあります。

さらに、文章を読解するのに時間を要する「日常生活や社会の事象などを題材とする問題」については、

「数学Ⅰ・数学Aの共通問題においては最低1題出題することとし、
数学Ⅱ・数学Bについても1題出題するように努める」

となります。時間のかかる問題は多くは出されない、これだけでも、ほっとしますよね。

2 当てはまる選択肢を全て選択する問題は出題されない。

試行調査でも出題されていた

「次の①～⑤のうちからすべて選べ。」というような問題は、出題されない

のです。「すべて」といわれると一つでも足りないダメ、一つでも多いダメ、解答してもとても不安がぬぐえない問題ですよね。これが出ないということで、またまた、ほっとしますよね。

3 選択肢から選ぶ問題は二重四角になる。

「令和3年度大学入学共通テストの問題冊子の表紙（イメージ）」によれば

「問題の文中の二重四角で表記された□などには、選択肢から一つを選んで、答えなさい。」

と、問題冊子に書かれる予定です。

もちろん、一重四角と同様に、同一の問題文中に2度以上現れる場合、原則として、2度目以降は細字の二重四角で表記します。少し見やすくなりますね。

4 共通テストは、3度実施する。

ほとんどの受験生は「第1日程」で受験するでしょうが都合により「第2日程」で受験する受験生もいます。これまでのセンター試験は本試・追試の2回で終わりでしたが、今回は例外的に、「第2日程」のさらに追試験として「特例追試験」が行われます。

この「特例追試験として使用する試験問題は、大規模な再試験等の不測の事態に備え、

センター試験の緊急対応用試験問題として作成

したものです。」つまり、センター試験として以前に作られていたもので、試験時間もセンター試験と同じで数学Ⅰ・数学Aは60分、「第1日程、第2日程」より10分短いのです。

でもこれが「共通テスト」の追試験として用いられるということは、「共通テスト」と「センター試験」はその難しさは大きくは変わらない、もし、大きく変わるなら、どの試験を受けたかで不公平が生じる、ということになるでしょうから。

5 その他、センター試験からの変更点

- ・共通テストは、「問題作成について、知識の理解の質を問う問題や、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題等を重視して出題します。」
- ・数学Ⅰ・Aの試験時間について、「60分から70分に変更します」（特例追試験は60分のまま）。
- ・全問マーク式というのは変わりません。



新しい制度で大変でしょうが、受験生の諸君が十二分に力を発揮できること、心から祈りたいですね。

学校法人河合塾 数学科講師 大竹真一